

2024年5月9日(木)

老球の細道796号

ゴールドデンウイーク(GW)バスケットボール観戦始末記

会津バスケットボール協会 室井 富仁

孫たちと共にバスケットボールGWになった。前半は謹教ミニバスケットチームが主催する「しらはぎカップ」を観戦した。この大会は男女ともに会津地区内外から24チームが参加するビッグイベントである。今回で22回の歴史を誇り、保護者を中心にU-12県部会総務委員長の宮原氏がまとめ役で、非常にチームワークよく運営されていた。

孫娘のチームも参加した。まだ4回くらいしか練習に参加していなかった孫娘は、チームのメンバーが少なかったために試合に出場することができた。第1試合は1Qのスタメンで、第2試合以降はレギュラーが出場する3Qで出場させてもらった。ルールも良く分からない、ボールもつかめない、もちろんシュートもできない。ないない尽くしの中でできることは走ることだけ。コーチの英断にただ感謝するのみであった。

孫娘のデビュー戦、何もできなくて泣きすくんでしまうのではないかとひたすら見守るのみだった。1Qでたった1回ボールに触れ、トラベリング1回しただけで初日が終わった。帰宅してから早速試合の反省とアドバイスをした。もう試合に出たくないというのではと心配したが、意外と落ち込まず、翌日に向けてやる気十分。そこでアドバイスをただ一つ「スコアシートに残ることをしなさい。相手のボールを取りに行きファールをしなさい」。

次の日の試合は、言われた通りファールを1回記録。波及効果でリバウンドも1回、さらに再びトラベリングも1回と存在感を表してくれた。

人生色々、四季折々、これから何が起こるか分からないが、昔の爺様は山へ芝刈りに行って日常を送っていたが、私はできる限り体育館に行き孫のプレイを見たい。

GW後半は高校体育大会地区予選の観戦だった。今大会の注目は、新人大会からのアップセット(番狂わせ)はあるのか、各高校の新生の活躍はどれほどかであった。

今大会最大のアップセットは会津高校男子の優勝であろう。新人地区大会ではかろうじて4位に入っていたが、予選リーグでも負け越し、会津工業には50点差の大差で負け、チームには暗雲が立ち込めていた。しかし、今回は決勝戦でその会津工業に対して圧勝で優勝をものにした。男子南会津、女子ザベリオのアップセットも話題に上がっていた。

会津高校はチームの課題であったプレスに対する攻撃をチームプレイで組織し見事に克服していた。多くのチームがガード一人でボール運びをすところを、インバウンドプレイ、パスによるボールダウン、フィニッシュの2:1と組織的に行われていた。また、今大会のMIP会津NO7竹安君(192cm)の成長は圧巻であった。中学三年からバスケットを始め、新人大会はボールキャッチもままならない状態であった。しかし、今回は会津の大魔神と豹変し、ゴール下を完全に支配。本人の努力と指導者の適切な指導に敬意を表したい。

大会中に久しぶりに顧問の林先生が観戦に訪れた。スタッフルームで「85歳になった今でもバスケットの夢を見ている」と熱く語っていた。まさに御意。次の大会が待ち遠しい。